

## 令和5年度 第4回 曳馬小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和6年2月1日(金) 午前10時00分から 午前11時40分
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾忠弘(副会長)、小楠和子、加藤美智子、飯尾智弘、池村俊典(学校支援コーディネーター)、中津川涼
- 4 欠席委員 川井啓介、丸茂早織、大野木祥代
- 5 オブザーバー 大平智史(曳馬協働センター)、中村佐知枝主任(主任児童員)
- 6 学校 竹内孝夫(校長)、土屋憲司(教頭)、影山重広(主幹教諭)、内堀邦子(CS ディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 内堀邦子(CS ディレクター )
- 9 議長選出  
司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ飯尾忠弘副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
  - ① 「学校関係評価」について (影山主幹教諭)
  - ② 「来年度の学校運営の基本方針」について(竹内校長)
  - ③ 「学校運営協議会自己評価」
- 11 夢育やらまいか事業報告(土屋教頭)

## 12 会議記録

司会から、委員総数9人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。オブザーバーとして、大平智史(曳馬協働センター)、中村佐知枝主任(主任児童員)に参加していただいた。

### 熟議

#### ①「学校関係者評価」について (影山主幹教諭)

来年度の教育課程の参考にするため、本年度夏休み期間中に前期の振り返りを行い、12月に後期の振り返りを行った。今年度の重点目標は別紙参照。今年度は、学習推進部、安心安全部、連携・協働の3つに分かれた土台を基にした経営目標を掲げ職員とともに学校経営を取り組んだ。重点目標が達成されているかどうかを昨年度のアンケート内容を変え、アンケートを行い、結果を職員とともに分析した。昨年度のアンケートから変更して児童の評価、保護者の評価、教職員の評価を16項目に分けて行った。達成度の評価は、児童>保護者>教職員となっている。学習面は保護者、教職員の評価が8割未満のものが目立つ。あいさつやタブレットの使い方マナー、体力作りについても保護者や教職員の評価が低かった。学力面では基礎学力は高いが主体的な学びに結びついていないことが分かった。主体的に学んだことが他の活動に活かすことができるように授業改善を行う必要がある。

学力調査テストからは全国平均を上回っていることが分かった。(学校だより曳馬っ子特別号参照)基礎学力の定着が高いので、それを基に、今後は総合的な学習を充実させていきたい。今年度の後半から職員が授業内容充実を図り、試行錯誤を続けている。(別紙参照)

来年度の方針を考えていく上で、改善方策を次のように考えていきたいのでご意見を伺いたい。

- 基礎的な学びを主体的な学びに結びつけていくために授業改善を行っていく。この目的の校内研修を行っていく。
- 総合学習、探究活動を行い、その経験を基に主体的な学びに結び付けていきたい。
- あいさつと言葉づかいについて、生徒指導担当と委員を中心に取り組んでいく。
- 体力づくりは体育主任を中心に授業の充実を図り、学年や委員会を通じ体力づくりイベントを企画開催する。
- いじめ撲滅のために、アンケート、アセス、定期的に面談を行い、児童、保護者、教職員と連携し、子どもをより良い成長へと導く。

主体的な学びについて、曳馬っ子へ求める未来像について理解できたが、他校や過去の曳馬っ子との比較で現状理解できるデータはありますか。(飯尾忠弘副会長)

全国学力調査のアンケートの結果、曳馬小学校は総合的な学習より基礎学習に力を入れてきたことが顕著にわかった。主体的な学びにつながるように今年度後半は授業改善を行ってきたが、まだ改善が足りていない。来年度は授業改善や学校行事、総合活動を見直し、遊びや掃除など学校生活のあらゆる活動を子ども自ら考え主体的に活動できるように見直していきたい。その方法を模索している。(影山主幹教諭)

現状が良く理解できた。(飯尾忠弘副会長)

6年生の家庭科の2月3月の授業で、白玉団子を作りお茶を入れもてなすという学習がある。現在の6年生とは2年間ボランティアとして接してきた。そのボランティアの方へ感謝の気持ちを伝えるためもてなしたいということ聞いて、家庭科授業の目的意識を子どもたちに理解させる授業内容を企画していて素晴らしいと思った。先生方の総合学習を意識した主体的な学びにつながる取り組みを実感した。授業改善に向け努力していることがよくわかった。(飯尾智弘会長)

4月からボランティアに入っていて教室に違和感があった。掃除は生徒全員で行っているのか、先生が行っているのか。教室内の整理整頓がされていないし、きれいとはいいがたい。勉強ができて身回りを整えるなどの基本的な生活習慣ができていないのではないかと。低学年から日常の整理整頓や清掃する能力を身につけた方が良いのではないかと。(池村コーディネータ)

掃除が行き届いていない現状を把握し、職員で教育課程を振り返る中で話し合いをしている。掃除は、昔は毎日縦割り班で行っていたが、現在は週1回児童全員での掃除のみ。全国的に掃

除の時間が減ってきている。子どもたちが汚れていることに慣れ、ゴミが落ちていても違和感をもたないことが課題と捉えて話し合っている。掃除の時間に関するテレビ番組の中で、黙働で掃除を行っている学校やお掃除ロボットを使ってゆとりの時間を手に入れている学校など様々な活動の紹介があった。子どもの人数が減っている中で学校施設の規模が変わらないため、間に合っていない様々な状況があり、掃除についても考えていく必要がある。曳馬小学校も掃除の時間について課題があると考え、話し合っている。(土屋教頭)

あいさつ、言葉使い … 「おはようございます」、「さようなら」、すれちがいの会釈、「こんにちは」、「授業の始まりと終わりのあいさつ」など来年度の課題

運動、体力作り … 授業改善とともに、大谷選手からのグローブを基にキャッチボールなどイベントを子供自ら考え行動していく。委員会をなどで、課題について考えていきたい。(影山主幹教諭)

大谷選手の思いを受けてのイベントは良いことだと思う。(飯尾忠弘副会長)

大谷グローブイベントはとても良いことだと思う。挨拶や言葉使いは家庭で小さい頃から身に着け、学校でも低学年のうちに基本的な生活習慣を身に着け自然に定着させていけたらよい。以前テレビで見た中で、子どもが転ぶ際に受け身が取れないもしくは身についていないことが取り上げ挙げられていた。原因はわからないが、体育の授業で転び方をやってもらえたらよい。

(中津川委員)

言葉使い、あいさつは心そのものだと思う。心がぞんざい(わがまま)だと思う子がいる。

道徳の授業をきちんとやらないと、心が育たない。言葉使いや自発的あいさつは変わらない。頑張ってもらいたい。

(飯尾智弘委員)

今日から自立登校が始まった。旗振りをしていると少人数での登校のためか、挨拶が必ず帰ってくる。あいさつが返ってくるとうれしい。(飯尾忠弘副会長)

本年度4回アンケートを行った。来年度は4回のアンケートに加え、4月の面談を新1年生だけではなく新2～6年生の希望者にも行う予定。保護者との連携を密にしていきたい。(影山主幹教諭)

授業の改革を行っている中で、アンケート等を行っていることはとても良いことだと思う。

(飯尾忠弘)

いじめアンケートを再来週行う予定。アンケートを行ったその日に内容確認し、聞き取り調査をして方針を決める。タイムラグは作らずその日のうち協議方針を決めていく。(影山主幹教諭)

## ② 来年度の学校経営方針(竹内校長) 別紙参照

未来をえがき のびやかに学ぶ曳馬っ子

### 「のびやかなまなび」

#### 4つの目標

- よろこびを作り出す。探究創造に力を入れる核にする。
- よさをのばす【自尊・個性伸長】
- 力を合わせる【協働・共生】
- これからをめざす【目標・選択】

「のびやかにまなぶ」は教師向けの合い言葉、「よろこびを作り出す」は子ども向けの合い言葉  
学習推進部を中心に学校経営を進めていく。

#### 学習推進部

- I. 資質・能力を確実に身に付ける授業改善
- II. 自立への基礎と豊かな生活を育む生活科。探求的に取り組むはりはら学習
- III. 子供主体の特別活動

#### 安心安全部

モラルをしっかりと身に付ける。心を耕す

- I. みんなの心地よい学校生活
- II. 自他を大事にする健康
- III. 穏やかで健やかな個別支援

来年は曳馬小学校創立 150 周年をむかえるにあたり、無理のないところで、過去を知り未来を  
考えるきっかけとしていきたい。

#### 土台とする学校風土(経営目標)

- I. のびやかに(自発的・創造的・発展的に学べる学校)
- II. 心身の安全が保障され、安心して生活できる学校
- III. 保護者や地域と目的を共有し、共に考える学校

新しいことを新しい学び方で学んでいって欲しい。

探究創造を大切に、特に探究のプロセスを大切にしていきたい。違和感をもち、知りたいや  
あこがれを持って学んで欲しい。やってみたいという気持ちを引き出したい。

自尊・個性伸長 → 良さを伸ばし、自尊心を高める

協働・共生 → 他者を認め、違いを認め、自分の役割を知る

目標・選択 → 目的を考え、自ら決断し、失敗から学ぶ

## 来年度の変更点

学習発表会をなくし、3 学期の参観会に学年毎の発表を行うように変更する予定。発表は各学年のタイミングに合わせるためバラバラになる。

清掃の持つ役割は大切だが、回数を増やさず、力を合わせるなどの観点から考え、1～3 年生の後期から掃除を縦割り班で行うように変更する予定。

来年度はできるだけ新しい教育観で色々変えていきたいと考えている。(竹内校長)

校長先生から来年度の学校経営方針の骨子を説明いただいた。今行っていることを変えていくには多くの力が必要になっていくことが想像できる。

「のびやかに」と言う言葉は普段あまり使わないので、子どもたちにきちんと浸透させていってもらいたい。「みらいをえがく」と言う言葉が明るい未来を感じる。

来年度の学校経営方針について了承した。(飯尾忠弘副会長)

### ③ 「学校運営協議会自己評価」

◇ 評価項目 1「学校運営の基本方針について熟議することができたか」については、既存の基本方針については熟議することができたという評価が主だが、ランドデザインが年度途中で大きく変更になったことについては熟議できていないとの評価があった。(飯尾忠弘副会長)

学校経営方針を大きく変える年となったため、新しい経営方針については熟議までに至らなかったと理解している。(竹内校長)

学校運営の基本方針を大きく変更した内容については本日の説明で理解することができた。(飯尾忠弘副会長)

本日の説明内容をきき、今後の学校経営方針が良く理解できた。(飯尾智弘委員)

◇ 評価項目 2「承認学校運営の基本方針」に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動について熟議を進めることができたか

協力依頼内容を実行できた項目について、教職員や子どもがどう思っているのかを知り検証していきたい(飯尾忠弘副会長)

先日教育委員会主催のコーディネータ 3 年目研修に参加して、各学校の運営協議会活動熱量の違いを感じた。曳馬小学校ではボランティアへ活動終了後子どもから「感謝の手紙」をもらうが、それはとてもすごいことだということに改めて気が付いた。他校のコーディネータに見せた際、このような感謝の気持ちを表現してもらっていると、ボランティアの輪が広げやすいのではないかと言われた。これは曳馬小学校の先生の努力のたまものだと思う。(池村コーディネータ)

自治会役員で 3 年生の校外学習の手伝いをした際、お礼のお手紙の冊子を受け取った。それを受け取った自治会のボランティアの方はとてもうれしい気持ちになり、来年も校外学習の手伝いをしていきたいという気持ちになった。(飯尾忠弘副会長)

先日家庭科の授業のボランティアに 5 年生の保護者が新たに多数参加してくれた。そのボランティアの方に対してある子どもから「ひまつぶしなの？」という言葉が投げかけられた。ボランティアに参加した人がつらい思いをした。子ども達にはボランティアの方がどんな気持ちで参加しているのか、きちんと伝える必要があると思う。年度初めにボランティアの方がなぜ授業の補佐にきてくれるのか、先生から子どもへきちんと伝える必要があると感じた。

ボランティアへのお手紙を書くことは、子どもにとっては活動の振り返りになるので、大切なステップだと今話を聞いて気付いた。(飯尾智弘委員)

協働センターやコーディネータの存在が運営協議会の活動に大きな力となっている。今後も支援を続けていきたい。(飯尾忠弘副会長)

◇ 評価項目 3 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

情報発信はいろいろな方法がある。各々発信はしているが、もう少し情報発信をする必要がある。(飯尾忠弘副会長)

◇ 評価項目 4 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

個人の目標ではなく、運営委員会の目標を考えていく。(飯尾忠弘副会長)

来年度は曳馬小学校創立 150 周年。子どもが楽しめるイベントを期待している。掃除も勉強だから週 1 回よりも回数が増やせる方が望ましい。(小楠委員)

子供主体で楽しい行事をやっていく予定(竹内校長)

来年度の目標は、協力依頼の内容をもう少し充実し、早い段階から活動できるようにしていきたい。具体的にはプール指導の補助などは、学生の方が適任。協働センターに集まってくる学生に早い段階でアプローチする方法を考える必要がある。6 月 7 月のことだが、急には見つからない。1 月の成人式などの実行委員を通じて募集するなどの方法を考えていきたい。

協力依頼 26 項目の内容を早めに調整していきたい。(飯尾忠弘副会長)

プールの補助は、今年度は校長と主幹教諭、生徒指導が 1 日中プールにいた状態だったので、協力していただくと助かる。(影山主幹教諭)

ボランティア活動に参加して、参観会で見るよそゆきの姿ではなく普段の子どもの姿を見ることができた。「子ども主体」での活動は素晴らしいと実感できた。子ども主体となっていけば、今以上に

生き生きしていくと思う。ボランティア活動に参加し、顔を覚えてもらえると校外であった際あいさつをしてくれ嬉しく思った。(加藤委員)

●夢育やらまいか事業報告(土屋教頭)

浜松市から頂いた予算を学校運営協議会から以下のように使って欲しいとの要望があった。学校と地域をつなげてほしいことと、子どもと地域をつなげてほしいという意見から、以下のものを購入させていただきました。

学校行事カレンダー作成…学校と地域、子どもをつなげていくのにもとても有効活用できた。  
ホワイトボードを購入…コロナの間話し合いが減った。クラスの話し合いにホワイトボードを使って主体的に関わる力を上げていきたい。